

# 1. これまでの湖岸植生帯の緊急保全対策の検討経緯

## 1.1. 湖岸植生帯減退の変遷

年	治水・利水事業等			水位管理	湖岸堤築造	年	植生及び植生成育環境情報			備考
	治水・利水事業等	水位管理	湖岸堤築造				湖岸植生面積	透明度	水質(T-N, T-P, COD)	
1950 S25	フェイズ1 (北利根川の引堤・浚渫以前の期間)	フェイズ1			50					
1955 S30	北利根川の引堤・浚渫 (1951)	<p>「常陸川放水路計画」に基づき、1948年(昭和23年)から1956年(昭和31年)かけて、北利根川の引堤・浚渫が行われた。</p>			55					
1960 S35					60					
1965 S40	常陸川水門完成 (1963: 昭和38年)		フェイズ2	湖岸堤築造開始	約1%	65	1972 植生調査(西浦)	<p>&lt;自然水位 Y.P.+0.8~1.1m, 水位変動大&gt;</p>		<p>図 霞ヶ浦湖心における透明度を箱ヒゲ図で示したもの。</p> <p>箱の範囲はデータの25%~75%、箱の上下のラインは許容範囲内にある最小値と最大値、箱の上下のは、はずれ値を示す。</p>
1970 S45	フェイズ2 (北利根川の引堤・浚渫以後の期間)		約10%	70						
1975 S50	常陸川水門による暫定水位調節開始 (1975)	フェイズ3		約40%	75					
1980 S55	常陸川水門は1963年(昭和38年)に完成し、1975年(昭和50年)から Y.P.+1.0 を目標水位とする水位調節が開始された。	<p>&lt;暫定水位 Y.P.+1.0m, 水位変動小&gt;</p>		約40%	80	1982 植生調査(西浦)	<p>&lt;管理目標水位 Y.P.+1.3m (冬) Y.P.+1.1m (夏) 水位変動小&gt;</p>		<p>(植生減少)</p>	
1985 S60	フェイズ3 (常陸川水門による暫定水位調節期間)			約5%	85					
1990 H2			フェイズ4		約4%	90				
1995 H7			湖岸堤整備完了		95					
2000 H12	管理目標水位による水位調節の開始 (1996)				00	1997 植生調査(西浦)				
	1996年(平成8年)から、10月から3月までの期間、Y.P.+1.3を目標に水位を維持する管理が開始された。									
	フェイズ4 (管理目標水位による水位調節期間)									
	暫定管理目標水位による運用 (冬季水位を Y.P.+1.1m に下げた) (2001)									
	フェイズ5 (通年 Y.P.+1.1m で運用)									

表 1-1 湖岸植生減退要因の年表

各フェイズにおける霞ヶ浦の日水位を月ごとに表す。図中、ボックスの範囲はデータの25~75%、バーはデータの10~90%、点はそれ以外の外れ値を示す。ボックスの中の線は中央値を示す。